



知床科学委員会 しんぶん

河川工作物 アドバイザー会議 No.15



「河川工作物アドバイザー会議」では、災害から生活を守りながらサケ類が遡上できるように、各専門家が行政機関に対して、ダム改良工事や遡上調査について助言をしています。しんぶんでは、その活動についてタイムリーな情報をお伝えします！

今回の会議

平成30年7月9日に斜里町ルシヤ川で現地検
討会、7月10日に斜里町公民館ゆめホール知
床で会議が開催されました。

今回話し合ったこと

- ① 第41回世界遺産委員会決議の対応について
- ② 長期モニタリング計画について
- ③ 第二次検討ダムについて
- ④ ルシヤ川の取り扱いについて

構成メンバー

- | | |
|------------|--------------------------------------|
| 中村 太士 (座長) | 北海道大学大学院 教授 |
| 荒木 仁志 | 北海道大学大学院 教授 |
| 卜部 浩一 | 北海道立総合研究機構水産研究本部
さげます・内水面水産試験場 主査 |
| 根岸 淳二郎 | 北海道大学大学院 准教授 |
| 森田 健太郎 | 水産研究・教育機構
北海道区水産研究所 主任研究員 |
| 安田 陽一 | 日本大学 教授 |
| ※桜井 泰憲 | 函館頭足類科学研究所 所長 |

※オブザーバーとして参加して頂きました

会議で話し合われた内容

1

第41回世界遺産委員会決議の対応について
ルシヤ川を「可能な限り最も自然な状態に回復するための
努力を継続及び強化するように強く勧奨する」という第41回
世界遺産委員会決議に対して、各関係機関が進めてきた状況
報告(案)について、北海道森林管理局から説明がありまし
た。また、IUCNのサケ科魚類専門家の知床招聘は、平成
31年度の実現に向けて努力していくことが確認されました。

2

長期モニタリングについて

オショロコマ長期モニタリングでは平成24年から10年を一期
とする計画を立て実施をしています。この調査は知床半島の37
つ河川で水温やオショロコマの生息状況などを調査をするもの
で、調査を開始して5年を経過した平成29年で調査が一巡しま
した。
後半5年のモニタリング調査では、河川水に含まれる生物の
DNAを分析して、そこに棲息する生物種を確認する環境DN
A調査を新たに加えて行っています。これまでのポイント的な
現地調査では把握できなかった生物種の確認などが期待されて
います。



▲ルシヤ川のNo.1ダムを視察



▲室内会議の様子

環境DNA調査
で、今までの調
査に比べてより
広い範囲に住む
生物の種類が分
かるようになる
よ！



会議で話し合われた内容

4 ルシヤ川の取り扱いについて

3 第二次検討ダムについて

カラフトマスなどのサケ類が遡上して自然産卵できるようにすることを目的として、オッカバケ川では2基のダムの改良が計画されています。2基のダムの内、上流のダムは昨年度、改良に着手し、水通し部が約45cm切り下げられたこと、今年は3回に分けて計1.5mを切り下げる予定であることが北海道森林管理局から報告されました。



▲オッカバケ川のダム下流の淵のカラフトマス(平成28年撮影)

【現況】



【切下げ】



▲ダム水通し部を一部切り下げた後のイメージ



▲ルシヤ川河口の河床路実証試験の予定箇所

① ルシヤ川の3基のダム

ルシヤ川の3基のダムは、切り欠きなどの魚道がつけられています。ユネスコより撤去を含むさらなる改善を求められています。これらの改善に当たっては、水理模型実験及びシミュレーション計算結果を判断材料として、本会議の委員・オブザーバーら専門家の意見を踏まえて、ダム水通し部を40mにわたって切り下げの方針が確認されました。この実施に向けて、効率的なコンクリートの取り壊し方法、切り下げ部の埋め戻し方法、施工時期、モニタリング手法などの詳細な検討を進めていくことが北海道よりの報告されました。

② ルシヤ川河口の道路部分の石組み河床路実証試験

ルシヤ川を横断する道路の低い箇所を、増水時に流されにくいように巨石を組み合わせて道路とする河床路実証試験(施工)について北海道森林管理局より説明がありました。今年11月頃を目途に施工する予定で、施工後は増水時の石組み河床路での通水状況の確認、車両通行に対する耐久性や走行性をモニタリングしていく予定です。

会議の内容をもっと知りたい方はコチラ

知床データセンター
<http://dc.shiretoko-whc.com/>

■ 問合せ先 ■

北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター
 〒099-4355
 斜里町ウトロ東番外地(国設知床野営場内)
 TEL: 0152-24-3466
 FAX: 0152-24-3477

■ 発行: 林野庁北海道森林管理局
 ■ 制作: 株式会社 森林環境リアライズ
 発行日: 2018年9月16日



オブザーバーの
 さくらい
 桜井です。



函館国際水産・海洋都市推進機構函館頭足類科学研究所・所長、
 知床世界自然遺産地域科学委員会・委員長。
 地球温暖化など海洋環境変化に反応する水産資源の変動予測や、知床地域を含む沿岸漁業の活性化に向けたお手伝いもしています。

生まれは岐阜県高山市の近郊で、中学生までは川が「溪流魚の手づかみ」など遊びの場所でした。「アユの踊り串」、「鯉の活き造り」などプロ級と自画自賛しています。趣味は溪流釣りですので、「川は遊び、海は仕事」と考えていました。知床世界自然遺産に関わって15年になりますが、陸と海をつなぐ知床の川の健全性が保たれながらも、地域住民の生活の安全を保障できるような、これからもアドバイザーとして助言して行きます。